

平成25年度

事業
報告



朝日の社会福祉

2013

社会福祉の要請に応えるために

朝日新聞厚生文化事業団の活動にご理解をいただき、ありがとうございます。

2013年度に実施した事業のなかから、主なものをご紹介しますリーフレット版の事業報告を作成いたしました。

未曾有の被害をもたらした東日本大震災から3年。被災者救援・復興支援事業は、14年2月に開設1周年を迎えた「朝日のあたる家」の運営にとどまらず、不自由な生活を強いられている方々に、心豊かなひとときを過ごしていただく「被災地ビジット」なども継続して実施してまいりました。

さらに、社会的養護の意識拡大を図るネットワーク作りやシンポジウムの開催、自閉症支援の一環としての親と教師に向けたDVDの作製。高齢者や介護者が悩む「終(つい)のすみか」に焦点を合わせた連続講演会の開催と時代を先取りした企画に取り組んでまいりました。

しかし、事業団の基本方針である「子ども」「障害のある人」「高齢者」の3本柱に変わりはありません。当事業団の取り組むべき課題は山積しています。社会の変化に目をこらしながら、時代の要請に応える事業を展開していきたいと考えております。今後も、ご支援・ご協力を、どうかよろしくお願いいたします。

震災関連事業

●朝日のあたる家(岩手)

岩手県陸前高田市米崎町の地域交流拠点「朝日のあたる家」(写真)が1周年を迎えました。震災救援事業に寄せられた寄付から5千万円をかけて事業団が建設した「コミュニティハウス」です。

心と体の健康、認知症、介護などの相談室のほか、「認知症カフェ」やグリーフケアのための「子どもの集い」、講演会やコンサートなどを開いてきました。料理教室をはじめ、体操・手芸・囲碁の教室も定期的に開催しています。この1年間で、仮設住宅に暮らす方々をはじめ延べ4千人に利用していただきました。



●こども応援金

震災で両親を亡くした子ども(孤児)に「東日本大震災こども応援金」を届けています。未就学児・小学生が1人当たり300万円、中学生が200万円、高校生相当年齢が150万円。「自由に使えるお金」として、対象の子どもたちに直接、渡しています。2014年3月末までに、対象と見込んで

きた220人の9割を超える202人に総額4億8850万円を贈ることができました。14年度も受け付けを継続します。

●大切な人を失った子どもに寄り添う「グリーフサポート」

東日本大震災で大切な人を失った子どもに寄り添うために、仙台駅前に「子どもグリーフサポートステーション」を12年に開設しました。子どもたちが、研修を受けたスタッフと好きな遊びをしたり、おしゃべりしたりするワンデイプログラムを毎月2回程度実施しています。

●被災地ビジット(宮城・岩手20カ所)

東日本大震災のため、不自由で不安な生活を強いられている方々が少しでも心豊かなひとときを過ごせるように「被災地ビジット」を13年度も実施。高齢者施設訪問「ゆうゆうビジット」のご協力者と一緒に、宮城県、岩手県の被災された方々を訪れました。

バイオリニストの川畠成道さん(写真)をはじめ、歌手のおおたか静流さん、ミュージシャンでマジシャンの大友剛さん、バイオリニストの千住真理子さん、ピアニストの山洞智さんといった方々にご協力をいただきました。



高齢者のための事業

●高齢者への暴力防止プロジェクト助成

高齢者への虐待を未然に防ぐ取り組み、研究などを応援する助成金制度「高齢者への暴力防止プロジェクト助成」を実施しました。(この事業は13年度をもって終了)。

●連続講座「住まいの終活」(東京、大阪)

人生の終末をどこで、どう過ごしたいか。高齢期を見据えた住み替えと、最期を迎える場所の選択など、「住まいの終活」について考える、3回連続講演会を東京と大阪で開催しました。バリアフリー工事にかかる費用など住みなれた家に暮らすために必要なことなどもお話しいただきました。

●「ひとり暮らしの認知症」(東京、大阪)

認知症になっても「家族に頼らない介護」は可能か。どのようなサポートを受けられるか。こうした課題を考える講演会を大阪と東京で開催しました。講師には長年、認知症の方や家族らと関わってきた医師の杉山孝博さんと、一人暮らしの認知症の友人を任意後見人として支えるノンフィクションライターの中澤まゆみさんをお招きしました。このほか「フォーラム 認知症カフェを考える2013」(東京)や「朝日高齢者福祉セミナー(名古屋)、高齢者施設訪問プログラム「ゆうゆうビジット」(全国18カ所)」といった事業も開催しました。

障害のある人のための事業

●自閉症カンファレンスNIPPON(東京)

8月24～25日、東京都新宿区の早稲田大学で開催。全国から福祉・教育・医療関係者、家族ら約1200人が参加しました。米国・ノースカロライナ大学の元TEACH部部長ゲーリー・メジボフ教授が来日。これまでの知的障害の重い自閉症とアスペルガー症候群・高機能自閉症などの捉え方の変化による影響を解説しました。

●第30回全国高校生の手話によるスピーチコンテスト(東京)

東京都中央区晴海の第一生命ホールで8月31日に開催。審査で選ばれた高校生10人が約500人の来場者の前で、手話と音声と同時に使ったスピーチを披露しました。第



1位に輝いた静岡県立沼津西高2年の山内菜帆さん(写真)は「見えない壁を乗り越えて」と題して、耳が一時、聞こえなくなった時に手話と出合った体験を柱に、力強いしぐさでスピーチ。「真のバリアフリー社会を築くために貢献したい」と抱負を述べました。

●講演会「高次脳機能障害の当事者が伝えたいこと」(岩手、愛知)

交通事故や病気で脳を損傷した高次脳機能障害の人たちは、日常生活の中でさまざまな問題に直面しています。当事者たちの言葉に耳を傾け、彼らが作った木工や手芸作品などに触れ、周りの人たちがどのように理解し、どう寄り添うのかを考えるのが講演会の狙いです。

●うつ病についての講演会(宮城、東京、大阪)

うつ病への理解を深め、うつ病の人を支える仕組みを考える講演会を宮城、東京、大阪で開催し、合わせて約470人が参加しました。

●スポーツ事業

第34回障害者歩くスキーの集い(札幌)や第34回朝日九州車いすバスケットボール選手権大会(長崎、写真)といった障害者のスポーツ事業も実施しました。



子どものための事業

●児童養護施設・里親家庭の高校生進学応援金

2014年春に高校を卒業し、夢の実現に向けて進学をする養護施設などの高校生20人に、入学時に必要な入学金など合計約900万円を贈りました。

●社会的養護の当事者グループの全国ネットワーク

「こどもっと」

米国のキッズハートツーハワイの創始者シンシア・ホワイトさん(写真)とディレクターの伊藤ヒロさんを講師に招き、社会的養護の当事者団体で活動する人を対象にリーダーズトレーニングを11月に開催。子どもの話を寄り添って聴くためのワークショップなどを行い、実践的で濃密な研修となりました。



●「子どもシェルター」の講演会(千葉)

千葉市稲毛区の千葉大学で1月に開催、300人が参加しました。子どもシェルターは、虐待などにより家庭で暮らすこ

とのできない10代後半の子どもを一時的に保護するための施設です。現在、東京や京都、和歌山など9都道府県で運営されています。

●第60回朝日夏季保育大学(長野)

第60回の記念開催となりました。7月26日、27日に、長野県諏訪市の駅前市民会館で開催。保育士をはじめ、幼稚園の先生など「乳幼児の健やかな育ち」を願う約900人が参加。作家の落合恵子さんの講演、歌手のおおたか静流さんのステージなど、盛りだくさんの内容となりました。

●親子で楽しむクリスマスコンサート(東京)

12月23日に有楽町朝日ホールで開催。アンコールを含め18曲が演奏され、家族連れら約600人がクリスマスのひと時を楽しみました。



その他の事業

主なチャリティー事業

●チャリティー美術展(名古屋、大阪、東京)

全国の芸術家や著名人から寄贈された作品を販売し、収益を社会福祉事業に充てる美術展を名古屋、大阪、東京で開催。文化勲章受章者や人間国宝を含む画家、工芸・彫塑家、書家など各界の著名人ら約2800人にご協力をいただき、販売作品は3800点に上りました。

●第63回メサイア演奏会(東京)

12月20日に東京・上野の東京文化会館大ホールで開きました(写真)。高関健さんの指揮で、藝大フィルハーモニアと東京藝術大学音楽学部声楽科の学生ら約200人が「メサイア」全曲を披露、約2千人が聴き入りました。



ガイドブックやDVDの作成・販売

●DVD

『自閉症の人が求める支援 全3巻』

『自閉症の人が見ている世界 全3巻』

『自閉症の子どもの評価 全4巻』

『自閉症の子どもの自立課題 全3巻』

『自閉症児の明日のために』など



●ガイドブック

『なるほど高次脳機能障害』

『みんなのうつ』

『認知症とともに』

『自閉症の人を支援するということ』

『自閉症のひとたちへの援助システム』

『精神障害者のホームヘルプサービス』

『くるまいす-第3改訂版』

『新・川崎病がわかる本改訂増補版』など

※ご購入のお申し込みは事業団ホームページから。

ご寄付や事業のお問い合わせ

朝日新聞厚生文化事業団の社会福祉事業は皆様からのご寄付で実施されています。個人、法人ともに税法上の優遇措置があり、寄付者名・団体名は朝日新聞の地域面に掲載します(千円以上。匿名扱い可)。相続税が非課税となる遺贈・遺言のご相談も含め、事業団へお問い合わせください。

主な寄付方法

- 郵便振替 「寄付専用」郵便振替用紙をお使いください。お手元がない場合は、00130・1・9166 加入者名＝朝日新聞厚生文化事業団(通信欄に「寄付」と明記。領収書不要の場合も付記を)。事業団が払込料金を負担する振替用紙をご請求ください。
- 銀行振り込み 「三井住友銀行新橋支店 普通 303668」(銀行振り込みの場合は事業団へ事前の電話連絡をお願いします)
- 現金受付 朝日新聞本社内の事業団窓口(平日午前10時～午後6時)、朝日新聞総局など
- クレジットカードによるご寄付もできます(事業団ホームページからN T T系「ちょコムクレジット」経由)
- ※寄付金控除 事業団へのご寄付は個人の場合、所得控除と税額控除の二つの寄付金控除方式のいずれか有利な方をお選びいただけます。この優遇を受ける場合、確定申告をしていただく必要があります。

- 本部 〒104-8011 東京都中央区築地5-3-2 TEL:03(5540)7446 FAX:03(5565)1643
- 大阪事務所 〒530-8211 大阪市北区中之島2-3-18 TEL:06(6201)8008 FAX:06(6231)3004
- 西部事務所 〒803-8586 北九州市小倉北区室町1-1-1 TEL:093(563)1284 FAX:093(563)1287
- 名古屋事務所 〒460-8488 名古屋市中区栄1-3-3 TEL:052(221)0307 FAX:052(221)5453

URL <http://www.asahi-welfare.or.jp/> E-mail mail@asahi-welfare.or.jp

朝日の社会福祉 2013

THE ASAHI SHIMBUN SOCIAL WELFARE ORGANIZATION
社会福祉法人 朝日新聞厚生文化事業団